

平成25年度

# 総会・シンポジウム開催

平成25年度兵庫県歌人クラブの総会が、4月29日(祝)午後1時から県民会館パルテホールに於いて開催された。新人賞贈呈式、役員承認などの総会行事に引き続き、シンポジウムが行われた。



第189号

題字出口草露  
発行者 〒679-5322 佐用郡佐用町上石井685 安藤直彦方  
兵庫県歌人クラブ  
会計 〒655-0039 神戸市垂水区霞ヶ丘5-1-14 池本登代子  
振替 01110-5-6903  
印刷所 ㈱甲南堂印刷

シンポジウム壇上



総合司会岩尾淳子氏の開会宣言のもと、総会並びにシンポジウムが開催された。総会に先立ち平成24年度歌人クラブ新人賞贈呈式が行われ、受賞者阿部綾子氏(水壘)に賞状と楯が贈呈され、選考委員足立晶子氏より選考経過が報告された。総会に移り兼貞靖行氏を議長に選出し、吉岡生夫代表より前年度の事業報告、会計の牧野秀子氏から収支決算報告、小畑庸子氏の監査報告があり、全て承認された。今年度は役員・幹事の改選期にあたり、9名の幹事が退任し、13名の新任幹事が就任。平成25年度の役員として次の各氏を選出、承認され新体制がスタートした。

代表(事務局長兼務) 安藤 直彦  
副代表 前田 昭子  
事務局次長 黒崎由起子  
会計 池本登代子  
会計監査 小畑 庸子  
安藤新代表より就任挨拶及び事業計画として年刊歌集、ふれあいの祭典、新人賞選考等のより充実した活動を目指し、互いの向上と交流の場となるクラブでありたいとの抱負があった。退任される吉岡生夫、伊藤佐重子、牧野秀子各氏に謝意をこめて花束が贈呈され総会は終了。

引き続きシンポジウム。コーディネーター尾崎まゆみ氏の進行により、パネラー來田康男、佐藤博之、竹村公作、中島眞喜子、藤井幸子、益永典子各氏が「短歌の魅力。あるいは、私の好きな歌」の表題のもと歌の魅力を語られた。小林副代表の閉会の辞により午後4時過ぎ散会。参加者は約100名。散会后懇親会が持たれた。(黒崎由起子)

### 代表就任 あいさつ



安藤直彦

発足以来六十七年の歴史をもつ当歌人クラブ、その三十年周年記念としての『会報の縮刷版』には先輩方の真摯で情熱的な歩みがみながぎつている。壮年が多く若手が少ないという状況の問題もすでに記されている。その壮年が今や高齢となられた今日である。改めて各世代間にとって「短歌」とは何かを種々思ってみる。桜花今年もきれいに咲きま

### 代表退任 あいさつ



吉岡生夫

一期二年、その任期中に歌人クラブの全体像を把握したいと思って続けていた年齢別構成の調査について報告しておきたい。三月末で会員数七五六名、年齢を把握できたのは54%、内訳は70代39%、80代31%、60代18%、90代5%、50代4%、50歳未満が3%だった。これをどう「読む」か。それによって課題も違ってくる。あと年刊歌集の補助金は支出額から参加費を引いた額であり、昨年も一

した窓をいっばい開けてみてます 山本てる子  
山本さんは九十三歳、施設から息子さんが車椅子で歌会に送迎されている。歌壇にその関係ないところでの営みであり、こうしたところにも日は射してやりたい。  
短歌創作はどうしようもなく一人のところで、どうしようもなく一人では成り立たないところがある。結社間の隔たりを越え、個々の営みを広いところに共有する、こうしたところにも有機的に機能する県歌人クラブでありたい。

昨年も満額補助である。ふれあいの祭典の収入が少なかつたが、これは作品が思うように集まらなかったからである。私が応募先となった21年度が五五六首、22年度が五七三首、昨年が四四五首だから十万円以上の減である。そんな中、最後の頼みは「人」であった。年刊歌集も、兵庫短歌祭も、厳しい日程となった会報発行も同様である。最後の最後まで応援し、支えて下さった皆さま、本当に有り難うございました。  
今、ジュニアへの関心を深めています。短歌の未来を信じてやまないからです。

### シンポジウム



「私の選ぶ秀歌、私の好きな歌」

#### 色あたらし

尾崎まゆみ

好きな歌と、秀歌は違う。その違いは、何処にあるのかを考えると、「短歌とは何か」も見えてくるのではないか。そう思うので、パネラーのみなさんに五首ずつ選んでいただいた。集まった六十首は、それぞれに主張のある選歌の基準を満たした秀歌ばかりで素晴らしい資料となった。好きな歌は、何所かがとても気になる歌。フレーズが気に入っているなど、いろいろその理由も考えることができるが、じつは無条件の一目ぼれが多い。その歌に魅せられて短歌をはじめたといつてもいいくらい魅かれる歌。秀歌は、好きな歌から選ばれた、選ぶ人にとっては、見られることを意識した表の顔かもしれない。秀歌の基準は、際だつ発想、情と景のバランス、独得の調べ、などにある、けれどそれはあくまでも細部。私は、先ず思いが込められているのかが大切だと思う。込められた思いによって与えられた言葉の力が、読む人の心を揺さぶる。

くれなゐの二尺のびたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる  
葛の花 踏みしだかれて、色あたらし。この山道を行きし人あり 正岡子規(明治三十三年)  
あぢさゐの藍のつゆけき花ありぬばたまの夜あかねさす昼 積道空『海やまのあひだ』  
三輪山の背後より不可思議の月立てりはじめに月と呼びしひとはや 佐藤佐太郎『帰潮』

馬を洗はば馬のたましひ返ゆるまで人戀はば人あやむるころ 山智恵子『みずかありなむ』  
六人の素晴らしいパネラーによって選ばれた秀歌から、私の好きな秀歌を五首上げてみた。塚本邦雄『感幻樂』  
薔薇の芽の描写から春のやわらかさが導き出されるように。どの歌も、鮮烈なイメージと繊細な感覚によって、情と景が豊かに立ちあがる。シンポジウムに参加されなかった方も、改めて自分にとっての秀歌と、好きな歌の違いを考えてみてください。うれしい。

**パネラー実況報告** 来田康男  
秀歌とは訴求力、普遍性のある作品。前衛への反発から

明快な狂歌・風刺詠を選んだが、美や格調にも憧れる。  
①革命家作詞家に凭りかかられてすこしづつ液化していくピアノ 塚本邦雄  
②門松は冥土の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし 一休宗純

③白河の清きに魚のすみかかねてもとの濁りの田沼こひしき 不明(蜀山人説あり)  
④馬を洗はば馬のたましひ返ゆるまで人戀はば人あやむるころ 塚本邦雄  
⑤避けやうもなく水雨の夜がくるうす桃色の薔薇をくだ

**「魚ちょうど」の会**  
代表 上田一成  
☆個々の言葉を大切にす場  
石田 勝啓 子 子 子  
高田 澄澄 子 子 子  
志田 澄澄 子 子 子  
塚本 澄澄 子 子 子  
栗山 澄澄 子 子 子  
山内 澄澄 子 子 子  
〒671-1211 姫路市勝原区熊見296-9  
上田方 TEL・FAX (079)236-6806

**尼崎歌人クラブ**  
事務局(連絡先)  
〒661-0014 尼崎市上ノ島町二二二一  
☎(〇七六)六四二一〇二一八 佐々木春美  
会長 中野昭子  
副会長 兎田孝子

**明石短歌会**  
明石公園内会議室  
毎月第一・三木曜日  
連絡先 田岡弘子  
〒673-0845 明石市太寺四ノ一ノ三〇  
☎(〇七八)九二二二六七三

**奥播磨短歌会**  
代表 西川洋子  
〒679-1203  
多可郡多可町加美区多田435  
☎(0795)35-0489

**淡路歌人クラブ**  
顧問 悦子  
代表 浜田 務  
副代表 来田 務  
副代表 谷池 さ  
会 計 清水 昭  
事 務 磯見 昭  
局 清 水 男  
〒656-0651 南あわじ市伊加利1062  
TEL・FAX (0799) 39-0835

**芦屋水甕短歌会**  
歌会 (PM1:30~4:00)  
第2土曜日(芦屋市民会館)  
第4金曜日(谷崎潤一郎記念館)  
・連絡先 〒659-0026 芦屋市西蔵町6-22 ☎(0797)31-7220 藤井幸子方  
・事務局 〒659-0012 芦屋市朝日ヶ丘町16-34 ☎(0797)31-5573 石井佳子方  
近くの方の御参加歓迎します

さい 米口 實

①は革命の胡散臭さを液状化に準え、②は目出度さの象徴を死への道標と喝破し、③は清貧より濁富を好む人間の本質を突いた点で秀逸。④は殺意を透明まで純化した点、⑤は師の作品だが直接的表現やどぎつさがなくとも訴求力があり憧れとして挙げた。

好きな歌は文字通り好きな歌で、正誤の問題ではない。

⑥「ブラッシーの囁み付きを見て死んだの」と少女は前世を語りはじめる 笹 公人

⑦前向きの山下りきて塵かぶる蛭頭族っていうほどじやない 大畠筈治

⑧雪の野にはいていむ日には少し歪みて勿体ぶりつつそりろり 沈めり 米満英男

⑨死んじやった翼のための翼だよ名前ほとんどもなくさびしいよ 足立尚彦

⑩遠いひとの寝息のやうに雪がふるはなれたからだがつながらるやうな 南 輝子

⑥は深遠な輪廻転生を茶の間の話題に装い、⑦は人に依存する虚業の本質を捉えた点が秀逸。⑧は淡々と死にいく点に迫力がある。⑨は風刺特有的の攻撃性ではなく切なさを締めた点が秀逸。⑩は師の作品⑤と同じ見地から選んだ。パネラーの皆さんから多く

の見解を学んだ。また尾崎さんから情への想いを指摘され作風拡大への示唆となった。

三十一文字に魅せられて

中島眞喜子



わたしにとつて秀歌として先ず浮かぶのは「鶯の群渡りをへたる野の上はただうすうすに青き雪照・木俣修」へ完きは一つとてなき阿羅漢のわらわらと起ちあがる夜無きや・大西民子へ「暗道のわれの歩みにまつはれる螢ありわれはいかなる河か・前登幸志夫」など、大自然に向き合い、同化し、短歌の抒情性をきわめた作品群。そして「冬の皺よせぬ海よ今少し生きて己の無惨を見むか・中城ふみ子」へ「我を生みしはこの鳥骸のごときものかさればよれし」とに黙す・齋藤史」この二首は自己を含む人間を冷徹に客観視しており、短歌でここまで表現できることに身震いする思いで対峙する。

私の好きな歌は枚挙に暇ないが「起ちても濤かがみても濤どうしやうもなくて見てゐる高志の冬濤・木俣修」へ「道のべの紫苑の花も過ぎむとしたれの決める高さに揃ふ・大西民子」へ「ちる花はかすかぎりなしごとく光をひきて谷にゆくかも・上田三四二」が先ず浮かぶ。大自然の営為の前に人間の小ささ無力さを感じ、それぞれの独特のリズム感にゆずがられる。「夕ぐれこのしづけさや鉢伏の峯の岩場にしむ入日あり・古川吉雄」古川は私の師事した唯一の歌人。へ「苗代の水見に行きし道すがらあざみの花を切りて帰りぬ・藤原東川」私の祖父の歌である。この歌の色紙の下にあざみの花が挿してあった。短歌を身近に感じ歌を作り始めたきっかけであった。「形成」の古川に出会うまで誰の指導も受けず、新聞等に投稿することもなく我流で断続的に詠ってきた。その後祖父が創刊に関わった「但丹歌人」に入会し、現在編集を担当している。地方の超結社の小さな雑誌だが、先人の志と熱意を継承する役割を荷うことを使命として。

怪しさと不気味さ 竹村公作

秀歌とは散文では捉えきれないものをとらえている歌。

「上田字豚小屋」という地名改め「緑ヶ丘」にわが陋居あり 柏崎驍二「百たひの雪」

### 小野短歌会

松尾 鹿次

代表 井上 敬子  
副代表 藤原三代子  
会計 藤井 久子

事務局  
〒675-1371 小野市黒川町五七三  
松尾鹿次

☎(0794)6212846

### 海市短歌会

編集発行人 中川 昭

発行所  
〒650-0027 神戸市中央区中町通三十一十五  
神戸コーポラス七〇二  
☎078-3710239

神戸支部  
〒653-0813 神戸市長田区宮川町  
四一八二二三  
明石多美子方

### 薫風

発行人 平井 恭治  
入会金・添削料 不要  
月刊 会費月 1,200円  
旧号 一部 500円  
発行所は神戸市。  
創立後半世紀が過ぎました。  
歌はこころ。自然を愛し、  
人を愛する仲間たちの集まりです。

発行所  
〒651-0077 神戸市中央区日暮通4丁目1-7  
(サニークート日暮202号)

### 薫風社

TEL・FAX (078) 221-0023  
振替 01160-2-6567 薫風社

編集部 長谷川 正  
神戸支社 長岡治子 播磨支社 西山寿美栄  
宝塚支社 新家絹子 丹波支社 上本このえ  
尼崎支社 濱恵美子 三田支社 雑賀実枝子

### 花鏡短歌会

石橋 妙子

〒658-0072 神戸市東灘区岡本2-10-3  
TEL (078) 441-3740  
FAX (078) 441-3744  
-運営委員-

安藤 成子 大久保 富美子 落合 民子 鬼塚 利子 金田 康子 黒田 弘子 富岡 道子 中山 裕美子 長川 一美子 東山 良彦 藤井 定代 増井 匡彦 松本 八重子 三木 博子 三津野 幸代 吉矢 清子

### 好日

「編集委員会」発行

選者  
中野 照子 小西 久郎 神谷 佳子  
古木 さよ子 益水 典子 福岡 勢子  
本土美紀江 西村 考史 前川登代子  
扇 龍子 渡辺 秀枝

連絡先  
〒662-0072 西宮市豊楽町十二十一  
益永 典子



地名を変える現代の風潮に對する腹立ちかな。

じつとりと眼をしばたきわれを見る亀をしばらくひつくり返す 日高堯子『雲の塔』人間は意味のない不思議な行動をすることがある。

校庭にゆるく鳴りたるオルガンのフアの狂いしを生きて来しかも 佐伯裕子『みずうみ』自分の不確かさ不安定さに触れるものを感じさせてくれる。二酸化炭素削減量の貸し借りといふ発想は思ひがけなし

花山多佳子『木立ダリア』「思いがけなし」と表現し、これが身体感覚であり、ここから散文的な考察が始まると思う。

おまへにはいつペン言ふておかねばと仏は足を組み変へたまふ

小黒世茂『やつとこどこ』仏のありがたさ、親しさをこんな風に表現したのがうまい好きな歌

われに孫出来るできない 娘ふたりもてど出来ない方へかたぶく 中地俊夫妻は温泉』生活の中の実感を歌にして自分を慰めている。

うつくしきかたちとなるまでカーテンはみだれることを知りたり 高瀬一誌『火ダルマ』「美は乱調にあり」をカーテンを使って想像させる。

湯豆腐を食べるたびに思い浮かぶ歌である。

遺伝子で男と女が入れかわるのはわかるがそれからどうする 高瀬一誌『火ダルマ』

「・どうする」が問いである。こんなにやくの裏と表のあやしさを歳晩のよる誰か見ている

人間の存在の不気味さを感じさせる意味のない動作 これを掴みだした歌が私に気になる。こういう怪しいことを人間はしながら生きているのであると短歌は教えてくれる。

短歌である意味 益永典子



歌壇は今、何でもありの状況で、価値観は混沌。そんな中、規範を求めるのは徒勞のようだが、だからこそ肝要といえるかもしれない。 最上川逆白波のたつまで

にふぶくゆふべとなりけるかも 齋藤 茂吉

あぢさゐの藍のつゆけき花ありぬめばたまの夜あかねさす昼 佐藤 佐太郎

おほてらの まろき はしらの つきかげ を つちに ふみつつ も のをこそ おもへ

会津 八一 去年の襦袢も今年のぼろも引提げてはるのやよひの橋渡りゆく 齋藤 史

十人殺せば深まるみどり百人殺せばしたたるみどり安土のみどり 永井 陽子

秀歌五首。秀歌には芸術的香気があり、格調が高い。三十一文字で、これだけ豊かなことが表現できたかと思わせる、即ち他のジャンル（散文や俳句等々）では出来ない、短歌であることを最大限に生かしている。更に、時代を作る個性があつて画期的であることが望ましい。茂吉や佐太郎の歌は近代の秀歌の典型。造語、単純化。枕詞の使い方も秀逸。八一の歌集『鹿鳴集』により古都奈良の美は広く世に伝わった。史の歌の激しく明るい根性。陽子の歌の歴史を見据えた無残な美。

世の中は常にしもがもな渚漕ぐあまの小舟の綱手かなしも 源 実朝

わがゆめはおいらん草の香のごとし雨ふれば濡れ風吹けばちる 北原 白秋

ことごとと小さな地震が表からはいつて裏へ抜けてゆきたり 山崎 方代

川端に牛と馬とがつながれて牛と馬とが物言はずけり 中村 三郎

心地よく生きる範囲をまた一つたたきつづして出でてきにけり 阿木津 英

好きな歌五首。私にとって基本的に秀歌と変りない。ついでに遊ぶような親しき。わが人生に寄り添ってくれた歌。

「秀歌」と「好きな歌」 佐藤博之



「秀歌」と「好きな歌」とはどんな歌であらうか。秀歌とは客観的な歌論から導かれる優れた要素を發揮した歌で、好きな歌とは個々の読者各々が個々の解釈や鑑賞を積み重ねる中から残る歌であると考えた。秀歌の具體的な要件を挙げ、五首の歌を引いた。 景物の具體的描寫 感情・主張を訴へる歌

### 香寺短歌会

年刊歌集「石路」  
代表 金井とし子  
〒679-2131 姫路市香寺町犬飼388  
☎(079)232-2368  
指導 生田よしえ  
会計 井奥 弥生

### コスモス藍の会

小野はつね 小野 幸恵 久保 崇子  
久米川孝子 黒田 富栄 菅原 艶子  
田坂 恭子 田中 恭子 林野千代美  
福井 弘子 本位田米美 水野 美子  
三宅 幸子 山本 元子 弓岡あき子

### コスモス桐の花

代表 尾上 田鶴子  
雨内富美子 井上 嘉子  
尾上田鶴子 齊藤 郁代  
新家加代子 増田 貞子  
森澤 敦子

連絡先  
〒671-2121 姫路市夢前町宮置一四四  
尾上 田鶴子  
☎(079) 333510433

・想像を働かせた歌  
 ・時事を捉へる歌  
 ・愛唱性/機智や冒險ある歌  
 ・くれなゐの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる  
 正岡子規  
 髪五尺ときなば水にやはらき少女ごころは秘めて放たじ  
 與謝野晶子  
 またひとり顔なき男あらはれて暗き踊りの輪をひろげゆく  
 岡野弘彦  
 子の好きな屈折放水塔車けふ絵本を飛び出し福島へゆく  
 大口玲子  
 すんすんと青田に鷲をばらまいて天地無用の今日の青空  
 足立晶子  
 好きな歌とは、あくまで個人に直接的に働きかける歌である。だが短歌は「座の文學」であり、座を通じた廣がりとして展開を持つ。個人の解釋・座の解釋を通じて歌を讀むことは、短歌といふ短詩系文學ならではの大きな愉しみである。私の所屬した座、國學院短歌・心の花の歌人、尾崎氏の歌から五首を選んだ。  
 葛の花 踏みしだかれて、色あたらし。この山道を行きし人あり 釋道空  
 一日がはげしく匂う濡れしまま学生服は壁につられて 岸上大作  
 ゼブラゾーンを叩ける白雨

古今集恋の部はます夏の恋歌  
 佐佐木幸綱  
 元日の風がゆるゆる浮く空を見ていたる父「た」と声を出す 藤島秀憲  
 蝶のまだ生れぬ森の暗闇の山紫陽花の白いかたまり 尾崎まゆみ  
 秀歌、好きな歌、いずれも、選ぶとなれば自分なりの定義が必要です。好き、ということなら端的に言えば、一読、ああ、いいなあ、と感じるということに尽きるでしょう。秀歌については、T・S・Eierotが詩の機能について言った「喜びを与える」「何かを伝達する」「意識を広げ感受性を洗練する」というようなことが思い出されますが結局は両者重なり融合するところが多いようでありませう。秀歌、というところでは、つけ捨てし野火の烟のあかあかと見えゆく頃、ぞ山は悲しき(尾上柴舟)  
 の、美しい韻律と抒情、君かへす朝の鋪石さくさくと雪よ林檎の香のごとくふれ



尽きせぬ魅力 藤井幸子

(北原白秋)  
 の清新な感覚、比喻、三輪山の背後より不可思議の月立てりはじめに月と呼びし人はや(山中智恵子)における、日常馴染んだものへの斬新な再認、馬を洗はば馬のたましひ沍ゆるまで人戀はば人あやむるころ(塚本邦雄)  
 の、通常言葉にし難い表現、その中の闇もろともに流れゆく空宙たのし浮きて沈みて(吉岡生夫)  
 での、意識の広がり、などが前述の詩の要件と重なります。一方、好きな歌で言えば、寂しさに海を覗けばあはれあはれ章魚逃げてゆく真昼の光(北原白秋)  
 処女にて身に深く持つ淨き卵秋の日吾の心熱くす(富小路禎子)  
 味酒の身はふかぶかと酔ひゆきて待つころなりいかなる明日も(伊藤一彦)  
 からだの中の白い部分にわたくしの母眠るらむ眩しくてある(尾崎まゆみ)  
 の各首に見る、人生の滑稽味を帯びた寂寥や清潔なセクシヤリテイや向日性や、母性へのナイーヴな心情表現など、短歌への尽きせぬ魅力を覚えさせられるところです。

流派を超えた短歌交流誌  
 楠田 立身 編集  
**象**  
 (SHO)  
 入会歓迎  
 〒670-0843  
 姫路市城東町清水 13-7-404  
 楠田 方 ☎(079) 285-1695  
 短歌ぐるうぶ象の会

創刊 宮 柗二  
**コスモス**  
 〒181-0001 東京都三鷹市井の頭 1-2-17  
**姫路支部**  
 支部代表 飯田 進  
 運営委員 尾上田鶴子 浜崎泰子  
 矢内温代 三宅幸子  
 連絡先 〒671-2233 姫路市太市中 678  
 飯田 進 ☎(079) 269-0513

**コスモス 葛の花**  
 会場 多可町八千代区  
 八千代プラザ  
 第二水曜日 午後1時  
 問い合わせ先  
 〒677-0121 多可郡多可町八千代区  
 花の宮1171  
 岸本 しげ子  
 ☎(0795)37-0680

**白珠**  
 兵庫県内支社  
 入社費 五〇〇円  
 社費六カ月六、〇〇〇円  
 旧号見本 切手 四〇〇円  
 神戸白珠の会  
 宝塚白珠の会  
 加東支社  
 〒562-0001 箕面市箕面三五一八  
 白珠社  
 代表 安田 純生

**佐用短歌連盟**  
 会長 安藤 直彦  
**グループ代表**  
 船引 貴明  
 尾上 節子  
 新家 イサ子  
 菅原 艶子  
 吉田 照子

**コスモス 龍野勉強会**  
 連絡先  
 〒671-2233  
 姫路市太市中六七八番地  
 飯田 進  
 ☎(〇七九) 二六九一〇五一三

2012年度 兵庫県歌人クラブ新人賞

阿部 綾子



略歴 1940年生まれ たつの市在住
2000年 水壘入会
2004年 水壘奨励賞受賞
2005年 水壘姫路入会
2010年 水壘同人
\*水壘姫路主宰小畑庸子氏に師事

受賞作品 風待つところ

- 海に向き立つ青鷺へ栗きんとんうまくできたと言付く
水際に腳踏みかへし青鷺はその後動かす冠毛立てて
長すぎる枯いろの脚水面をひとたび押さへ水に入りゆく
助走なく大き翼を空に切り浮かびゆきたり風待つところ
朱いろのうすき嘴より吐き出だす声美しからず風が掬へり
あをき翼広げ発ちたる大きとり光となりて嶺とほく消ゆ
砂浜につづく大きな足跡にわづかずれゆく小さき足跡
縁欠けの空の巻貝揺らぎつつ渚に玉虫いろを固持せり
上げ潮は白く濁れる泡を吐き夕砂浜を一気に呑みゆく
鶏頭は初冬に入りて盛りなり肉冠厚みを増して黒ずむ

受賞のことば

この度は、兵庫県歌人クラブ新人賞をいただきありがとうございます。昨年十二月二十日すぎ、新人賞応募依頼の葉書が届き、締切は翌年の二月十五日消印有効となっていました。つねづね年齢と作品は関係ないと思っておりましたが、七十の坂を登りはじめた私にとりましては、やはり新人賞は合っていないのではないかと思いました。締切日まで五十日余り。しばらくの思案の後、折角の機会なので応募することに決めました。誤字、脱字、表記などに注意しながら、出来上がった作品に何度も目を通し消印有効日当日に投函。何とか間に合いました。私がいま目指しているのは、自然、日常の中での小さな変化や出来事を平明な言葉でリアルに表現したいということです。遅々とした歩みではありますが、一步一步地に足をつけて詠って行きたいと思っています。私の作品を取り上げてノミネートして下さいました方々、選考委員の皆様には厚く御礼申し上げます。最後になりましたが、水壘入会以来御指導をいただいている小畑庸子先生、水壘姫路歌友の皆様にも御礼申し上げます。

阿部 綾子 (水壘)

- 山裾にふり積む木木のもみぢ葉に紛れてをらむきみのパレット
後ろ手に落葉の森へ入りゆく男瘦身 霜厚き朝
一月の落葉樹林へ消えゆけり霜を踏む音われに届かず
自転車を下下に置いて空仰ぐ冬のアしたの白花水木
自販機の横の草地は長方形電話ボツクスなくなりてゐる
碧眼の猫ゆつくりと首回す百八十八度はつかに過ぎて
海出でし海鼠悴めり灯油屋のゆきやこんこが角曲るころ
左小指を離れゆきたる夜の爪沈みゆきたり毳の深みへ
自らのするどき声に目覚めたる明け方軒に雨の音する
万両の朱実ひとつぶ残されてみどり葉の下点りてをりぬ

新人賞最終候補作品抄

芽吹き

青田綾子 (文学圏)

- チェーホフのドラマ幕あき午後の日を受けて木立の落葉続く
端正に翅をたたみて大根の葉の上へ命終りていたり
雪原の大き足跡月光の青きを溜めて森に入りゆく
弾きあう光と光 如月の朝の疎林が時折垂る
ランドセル鳴りつつ行けり芽吹き木や芽吹きおくるる木々の間の道
白鳥の羽 西塚洋子 (象)
白鳥の羽が汚れてゐたなんて大人になつてはじめて知つた
長ぐつは今も大好きじやぶじやぶと好きなどころに歩いてゆける
足元のぐらりふらつき握りたる人

- のぬくもりのこる吊草
ばんばんに膨らんでゐたゴムボール空気が抜けて歪になつて
雨の日は雨に濡れゆき風の日は風に吹かれる私は芒
息を吸う 和田真由 (眩)
菜の花がとうとうとひらく昼下がり
紋白蝶と私の春
黒羽揚光をひきて現れた夏の真ん中オレンジ畑
大空を吸い込むように息を吸うあなたの匂いしみこませたくて
クモの巣に下りてきた朝ゆたゆたと光の粒を丁寧になく
雪はふるふるふるふる雪雪はふる見上げるものを吸い取るように

木枯し茶色

廣庭由利子 (未来・玲瓏)

- 鉢水の身の内おつる冷たさを照らして秋の電光奔る
三日月の赤く大きく空ひくく浮かぶ十九時なにごとなく
独り居のひとりたてゐる物の音木枯し茶色の裾さばく音
早々頓首 小谷哲夫
衰弱する国家とともにわたくしはあまりに碧い海を見てゐた
にんげんは合理的だとふ仮説に依存しすぎて壊れたる椅子
見に来いよ 桜が咲いた たましひも恢復したぞ 早々頓首
聖業と呼ぶ 美咲ハル (眩)
乾物屋八百屋魚屋呼び方に違和感

なきが保険屋にはある  
 ・聖業と呼ぶは真理かごまかしか卑屈にさせぬ呪文なりしか  
 ・不美人な営業員が美人より有利との説秘かに信じる

本のバリケード

宮城十子  
 (潮音・花鏡)

・ぎつしりと本を入れたる箱を出し一夜限りのバリケード築く  
 ・思ひ倦むこと一休み天井を見つむれば直線ばかりの木目  
 ・配布物留めゆくりズムでわれを見るアマガヘル色のわれのホチキス

春一番

桂比呂志 (美加志保)

・春一番吹くふる里の岡に立ち原発0の闘志をいだけ  
 ・生み月の牛に添ひ寝をしてをれば馬追ひの来て筵戸に鳴く

からす瓜

内山嗣隆 (文学園)

・花咲くを気づかぬままにからす瓜池面に赤き実を映しいる  
 ・山ふかく水の枯れたる冬の池の底ひを擦りてゆくものの影

花鳥園

佐藤博之 (心の花)

・とりどりの鳥あつめたる花鳥園、取りとめのなき一人小旅行  
 ・白く丸く大きな羽毛の一塊が目覚めて伸ばす首の長きよ

何処に向かうのか

清水昭男  
 (淡路歌人クラブ)

・残雪を四角い窓に当てがいてヤモ

りの血脈黒く映れり  
 ・長き闇出でて次代を継がむ朝空蟬の向こう浮き雲が行く

花のくれない

吉永明代 (水漣)

・満員電車しずかに揺れて母の手の庭の小菊の束は香りぬ  
 ・触れゆかば地に落ちそうなる山茶花の花のくれない悲しからずや

父の自動車

老月良一 (心の花)

・父の持つ赤のカラー塗替えして小豆色にす父は老いたり  
 ・収束をエラーで判定PCはシュミレーションのおもち箱だった

夕焼け小焼け

斎藤和子 (眩)

・落ち込んだ夜にはふつと口ずさむ夕焼け小焼けの一小節を  
 ・あいつとはやつて行けない今日も又お頭のない魚を煮てゐる

望ちゃんのパパ

藤本すみ子

・犬友の互の名前は知らぬまま望ちゃんのパパと夫も呼ばれて  
 ・「雲はもうすつかり秋ね」と子の言えるそうか空から秋は来るのか

世代

高野由紀子 (六甲)

・聞く耳を持たずに行きし末の子は八年が過ぎ三児のパパに  
 ・誤字脱字あつても貴女を許します八十三歳パソコン入門

新人賞選考過程

確かな視点

足立晶子 (心の花)



三月二日、神戸市勤労会館において新人賞選考委員会が開かれた。公募作品

二十一篇と、年刊歌集より推薦された方々の作品十二篇の計三十三篇を、選考委員五人(一名は選考表提出で欠席)により選考した。それぞれの順位を得点表にし、上位十作品ほどを討議、検討した。同点の六位が二篇となった。

一位「風待つところ」

写実的な所をきつちり描き、発想も既視感が少なく、確かな眼を感じさせる。構成的に前半は海浜や鳥、後半は生活の場や樹林などとはつきり分かれている。前半の青鷺の歌や後半の生活身辺の歌など秀歌が多いが、構成を再考すれば、全体の印象がもつと際立つて来ると思う。

二位「芽吹き」

過疎化した村の生活と季節の移ろいをしつかり捉えており、完成度が高い。冬から春へ向かう季節を丁寧な詠むことにより、村の暮しを慈しむ思いが伝わってくる。ただ、新鮮味に物足りなさがあり、ありきたりの抒情ではという指摘もあった。

三位「白鳥の羽」

独自の感覚が鋭く、楽しい。口語表現も生かされている。新鮮味はあるが、せつかくの感性を安易な表現にしてしまった。発想力などに、まだ弱い点

がある。

四位「息を吸う」

自然体で日常、自己の周辺を独特の視線でうたう。表現は的確なものと言葉、破調などわかりにくいものがある。批評眼など類型的になる部分もある。

五位「木枯し茶色」

写実とは違う特異性がある。クラシツクな雰囲気の中に今日性を出しているが、センチメンタルな印象もある。特異な感性の生かし方に偏りがあるかもしれない。

六位「早々頓首」

現時点での社会問題をうまく取り入れている。男歌のかつこよさが文体、言葉などから感じられる。ただそれらがやや観念的になる歌があった。

六位「聖業と呼ぶ」

今回あまり見られない仕事の歌として注目された。自らを「保険屋」と称しながら、日々の思いを連作に生かしてうたい込んでいる。表現も巧みだが、やや俗に傾いている歌もあった。

三十三篇の作品を読み二十首連作のむずかしさを思った。巻頭、巻末の歌には注意が必要であるし、ひとつの言葉が瑕になることもある。最終的に年齢を見ると三、四十代が五人で高齢の方の努力が印象的だった。新人賞の意味もまた問われるだろう。確かな視点を持つ作品の力は気持がよかった。

選考委員

足立晶子 安藤直彦  
 小林幹也 田岡弘子

事務担当

藤井幸子  
 西橋美保

追悼

米口 實さん  
短歌とともに



平成二十五年一月十五日夜「眩」歌会主宰米口實先生は九十二歳の生涯を全うされました。兵庫県歌人クラブ恒例の新年会の日であった。かつて歌人クラブ代表を長く務めておられた頃を思い出し病室

追悼

から新年会の様子を想っておられたであろう。眩の仲間と会の後、喫茶室で今からお見舞いと言いつつ帰宅してしまつたことが悔やまれる。ご葬儀後に、砂子屋書房から最終歌集『惜命』が届き、帯には「私は四、五年前から肺癌に侵されている・・・」とあった。我々会員には病状のことはおくびにも出さず常に静かにゆつくりと指導して頂いた。一月九日が最後の勉強会になつてしまつた。やはりこの日は少しお疲れの様子だつたが五十首の詠草の指導であつた。貴重な時間であつた。最後になつた。誰とも気がついてはいなかつた。唯、いつもは誰かが先生のお部屋までお送りすることになつていたが、この日はホームの看護師さんが終りを待ち兼ねるように部屋へと素早く車椅子を押して行かれた。お疲れにもかかわらず最後の勉強会をいつも通りに終え永遠の彼方に逝つてしまわれた。準備中であつた最終歌集『惜命』の後記の日付は一月九日である。最後まで短歌とともに過ごされたのである。『惜命』は内面の吐露をよしとされ、しみじみと哀しい歌集である。(西海隆子)

地区通信

【阪神】1月30日、川西市市民会館にて兵庫県歌人クラブ川西市在住有志の会主催第4

回講演会開催。講演は井上美地氏の「晩年の石川啄木」歌集に載らなかつた歌とその背景」。参加者小林幹也、星野敏江、益本正隆、森嶋郁子各氏他35名。▼2月3日、園田女子大学にて「契沖顕彰短歌大会」開催。契沖大賞・中西照子氏、県知事賞・堂本ま

みあ氏が受賞。選者並びに選評は伊藤佐重子、楠田智佐美、田岡弘子、たなかみち、中野昭子各氏が担当。参加者吉岡生夫氏他500名。(たなかみち)

【神戸】11月27日、元兵庫県歌人クラブ幹事藤本卓氏逝去。▼12月1日神戸芸術文化会議より『2011こうべ芸文アンソロジー』刊行。伊藤道子、浮田伸子、尾崎まゆみ各氏ら10名が参加。▼1月26日夙川山本清記念財団(旧山本清邸)において海市「新春

百人一首カルタ会」開催。中川昭氏ら参加者15名。▼1月31日尼崎ホッポインにおいて花鏡新年歌会開催。60名参加。▼4月3日生田神社において曲水の宴が開催され、井戸敏三県知事、吉岡生夫、安藤直彦、中川昭、尾崎まゆみ、仁伍若菜、岩尾淳子各氏が参宴。今年度の歌題は「新」、参宴者の作品を宮内庁歌会始披露会坊城俊在氏が披露された。▼4月11、16日、さんちかホールにおいて第43回神戸まつり協賛「神戸の百人色紙展」開

新月

編集発行人 筒井早苗  
発行所 奈良県生駒郡斑鳩町 稲葉西二六一三〇  
☎(〇七四五) 七五一六七〇〇  
芦屋支部  
西村 郁  
☎(〇七八) 七三三八五六九  
西宮支部  
市川美恵  
☎(〇七九八) 五三二〇四五六

「菊池庫郎系」季刊 短歌春秋

編集室 会費一年 八、〇〇〇円  
〒537-0025 大阪市東成区中道四ノ十三ノ五  
西播支部 津山 秀夫方  
〒671-2576 宍粟市山崎町鹿沢一八八四  
安東 はつ子  
☎(〇七九〇) 六二一〇九一七

○例会 毎月第三日曜に歌会ならびに歌集研究をおこなう  
○指導 津山秀夫

但丹歌人(隔月刊)

但丹歌人会 発行表 齊藤好正  
編集発行人 中島眞喜子  
〒669-5229 朝来市和田山町宮 438  
☎(079) 672-2334  
運営委員 井上 澄子 尾形 貢 衣川由弥子  
中島眞喜子 西村 清野 平野 君枝

高嶺

創刊 昭和21年 早川幾忠  
継承 昭和21年 二宮冬鳥  
編集 平成8年 井上生二  
・支部長・運営委員 野瀬 昭二  
・在県同人 石橋 光子 井口 通子 大塚 照美  
坂田嬉和子 正法地清美 松田 郁子  
松田 芳子  
△事務局 伊藤 敦子  
〒673-0011 明石市西明石町 4-7-21  
☎(078) 927-4439

丹生 TANZYO

主 張 生活写実を主体として真剣に作歌力を深めようとする集り  
創刊 昭和二十一年  
兼 貞 靖行  
〒673-0424 三木市自由が丘本町 2-232  
☎(0794) 83-0803  
編集同人 井口通子・林 茂代・藤井貞子・前中 仁・兼貞靖行・上倉佐田子・山中洋子  
〒673-0533 三木市緑ヶ丘町東 2-11-5  
山中洋子方  
☎(0794) 84-0296  
事務局先 振替口座 00950-9-195197

千鳥短歌会

山桜や紅葉に染まる山々。波荒く、また風ぎる瀬戸の海。渡る千鳥。取り巻くすべてが歌心を誘う恵まれた環境にある短歌会です。月一回、第一土曜の午後行われる例会は活気に満ち、和気あいあいの楽しい雰囲気です。  
代表 山田 恵子  
〒656-0426 南あわじ市橋元大榎列  
☎(〇七九九) 四二二一〇六二



催。尾崎まゆみ、中川昭、黒崎由起子各氏が出品。

(黒崎由起子)

【白石】11月23日、明石市文芸発表式を明石市生涯学習センターにて開催。短歌一般部門の応募総数322首。選者楠田立身氏。市長賞松尾鹿次氏。ジュニア部門の応募総数818首。選者田岡弘子氏。市長賞本谷優果さん。式後にそれぞれ選者の講評が行われた。▼1月1日、明石ベントラブ(代表野瀬昭二氏)会報第128号発行。河野光明氏が随筆新春雑感「温故知新」を発表。▼短歌結社誌「あけび」1月号に花田比露思の歌鑑賞を河野光明氏が執筆。▼3月25日、兵庫県歌人クラブ幹事河野光明氏逝去。

【姫路】2月21日、たつの市新宮町公民館にて新宮町短歌大会開催。講師の首藤幸子氏が選歌及び作品批評。出席者40余名。▼4月7、8の両日東京王プラザホテルにて「水襄」全国大会開催。小畑庸子、小松カヅ子、藤本則子各氏他多数出席。▼5月9日上郡町生涯学習支援センターにて千種川学園開講に講師の上田一成氏他出席。

(上田一成) 【東播】3月1日、加古川市

中学校国語研究部は、前田昭子氏による加古川市内の中学校12校の勉強会の選歌540首と選評を編集した「感じて短歌」誌を発刊。▼4月17日茅花短歌会は、第36回菅原道真公奉賛献詠祭を稲美町天満神社にて開催。一般の部、出詠歌134首。選歌と選評松尾鹿次、小畑庸子、前田昭子各氏。特選8名、優秀5名。県知事賞芦田礼子氏(姫路)。

出席者45名。小中学生の部出詠歌297首(小学生)25首(中学生)。選歌と選評松田和薫、前田昭子両氏。特選9名、優秀8名、町長賞河野晴香さん(天満小6年)、深野怜さん(別府中)。出席者50余名。(前田昭子)

【中播】11月11日、姫路市網干区不徹寺にて水襄姫路支社は姫路市こころの祭りに協賛して公開歌会を行う。▼11月9、11日、香寺・恒屋川両短歌会は姫路市公民館祭りに短冊を出展。▼1月24日、市川町コミュニティセンターにて

いちかわ文化協会主催新春短歌会開催。出詠110首。入選山本道子氏他6名。選歌と講評小畑庸子氏。▼2月10日神戸河神崎公民館にて神崎町文芸祭を開催。入賞澤田正美、入選佐想京子両氏他。選歌と選評小畑庸子氏。

(生田よしえ) 【北播】11月3日、滝野文化会館にて文化連盟祭第7回加東市短歌大会開催。応募数70首。市長賞森本喜美子氏(黒谷)。出席者県歌人クラブ吉岡生夫代表、田中義昭氏他35名。▼11月12日、アスティアカさいにて第46回加西市文化祭文芸祭開催。短歌応募数一般の部180首、選者安藤直彦氏。ジュニアの部181首。

選歌加西短歌の会役員。市長賞一般の部伊藤悦子氏(野上町)、ジュニアの部大西芹香さん(泉中2年)。▼1月1日、西脇短歌会は「童嶺」53号発行。出詠者48名。▼2月1日、加西短歌の会は合同歌集第13集発行。出詠者77名。▼4月29日西脇市高松町長明寺内宝光院にて第34回源三位頼政公奉賛献詠短歌大会開催。応募歌108首。選考は北播各地区幹事14名、講師臼井やすの氏。特選第一席藤中光代氏(西脇市)。出席者宮崎修氏他35名。(松尾 鹿次)

【西播】3月19日、南光文化センターにおいて、佐用短歌連盟(会長安藤直彦)主催佐用郡春季短歌大会開催。応募総数42首。参加者安藤直彦、尾上節子、新家イサ子、菅原艶子、船引貴明、吉田照子各氏ら35名。大会賞上村哲代氏。

津布良

恒屋川短歌会

市川 深雪 大塚 好子  
大西 豊子 清瀬 輝代  
竹川たづる 出来佐恵子  
木村よしの 生田みのり  
永瀬たず子 羽岡きよ子  
東 陽子 木倉 正代  
代表 竹川たづる  
会計 生田みのり  
連絡先  
〒679-2131 姫路市香寺町大飼八六五三三  
☎〇七九二二二二二三五五三

潮音

大正4年創刊  
編集・発行 木村 雅子  
鎌倉市扇谷3-11-4  
〒248-0011  
神戸歌会 石橋 妙子  
〒658-0072 神戸市東灘区岡本2-10-3  
☎(078) 441-3740  
幹事 井田 子子  
三津野幸代  
増松 福三  
計査 田島 雅子  
会監 松本 福三

長風

鈴木幸輔創刊  
会費六ヶ月 六、〇〇〇円  
〒353-0004 志木市本町二二二一四八  
金子正男 方  
長風短歌会  
関西支部 黒崎由起子  
〒651-0052 神戸市中央区中島通  
☎(〇七八)二四二二四九三

茅花短歌会

短歌文学の鑑賞と作歌についての研修を行い、清新自由で個性に応じた作歌を目指します  
毎月第二水曜日九時より  
ふれあい交流館で勉強会  
講師 松田 和薫  
代表 前田 昭子  
〒675-1113 加古郡稲美町岡一六三〇  
TEL 〇七九 四九二二一七六六  
FAX 〇七九 四九二二一七六六

津布良

代表 兎田 孝子  
発行所  
〒661-0046 尼崎市常松一九上九  
松村 和子  
TEL 〇六 六四三三三五三七  
FAX 〇六 六四三三三五三七

とべら (月刊)

代表者 木山 正規  
編集・発行者 尼子 勝義  
発行所 とべら発行所  
〒678-0163 赤穂市高雄 1876-1  
尼子方  
☎(0791) 48-0137

〔但馬〕1月21日、やぶ短歌会『年刊歌集 山茶花』44号発行。▼2月15日、新温泉町にて第18回「前田純孝賞」学生短歌コンクール審査結果発表。応募数4648首、選者佐佐木幸綱氏。前田純孝賞中学生の部海金寛喜さん(兵庫県立神崎高校)。▼4月18

### 2012年度臨時幹事会報告

3月25日、兵庫県民会館にて開催。出席幹事32名。議長松尾鹿次氏。  
 ①留任幹事41名、退任幹事9名、新任幹事11名が承認される。  
 ②代表選の投票が行われ、新代表に安藤直彦氏が選出された。

### 2013年度第一回幹事会報告

4月9日、神戸勤労会館にて開催。出席幹事31名。議長前田昭子氏。  
 ①退任、新任幹事。(敬称略)  
 【退任幹事】尾上田鶴子、大島良樹、岡本光代、沢田英史、高田和子、富田弘、藤井幸子、松田博子、弓岡あき子  
 【兵庫県歌人クラブ顧問並び

日、豊岡市民会館にて「但丹歌人会・春の大会」開催。  
 (足立勝蔵)  
 【淡路】6月2日、洲本図書館にて第32回全淡短歌祭開催(詳細次号にて)。(来田 務)  
 (お送り戴いた通信は会報の形式にそって編集させていただいております。)

#### に全幹事

〈顧問〉石橋妙子、楠田立身、土居正  
 〈幹事〉青田綾子、足立晶子、足立勝蔵、尼子勝義、安藤直彦、飯田進、生田よしえ、池本登代子、石原智秋、伊藤敦子、伊藤佐重子、上田一成、浮田伸子、内海永子、尾崎まゆみ、落合けい子、落合民子、小畑庸子、桂保子、兼貞靖行、河村公美、来田務、黒崎由起子、小谷博泰、小林幹也、志方弘子、清水昭男、田岡弘子、高井忠明、竹村公作、たなかみち、中川昭、中島眞喜子、西海隆子、西橋美保、野瀬昭二、藤岡成子、船橋貞子、前田昭子、牧野秀子、益永典子、松尾鹿次、松田辰子、三津野幸代、森嶋郁子、矢内温代、保田ひで、矢野一代、山中洋子、吉岡生夫、吉田千代美、吉野節子(52名)

(※大字は新任幹事)

- ①平成24年度事業報告並びに会計報告
- ・吉岡氏より「走る県民教室による吟行」は実現できなかったが「幹事興し」は3社からの加入が実現したとの報告があった。
- ・牧野氏より会計報告があり、各行事の項目ごとの決算書が回覧された。
- ③平成24年度監査報告
- ・小畑氏より、適正であった旨の報告があった。
- ④平成25年度役員について臨時幹事会により選出された安藤新代表より平成25年度執行部役員の発表があった。(一ページに記載)新代表より挨拶。
- ⑤平成25年度事業計画
- 新代表より「神戸短歌祭」(4月29日)「兵庫短歌祭」(11月30日於、県民会館)「年刊歌集」「会報」(年2回)「新人賞」「夏休み親子体験教室」(7月27日)「新年懇親会」等の取り組みのより充実した意義深い方方を工夫したい旨が提示された。また歌会や歌論の勉強会、各位の活動を通し、会員の増員、短歌祭、新人賞の参加人数の増加を図りたい旨が合わせて提示された。

### 姫路歌人クラブ

顧問 安井 一美 水野 美子  
 代表 楠田 立身  
 副代表 神保原広己  
 会 計 青田 綾子 小松カツ子  
 会 計 監 査 下村 千里 三宅 幸子  
 事務局 事務局長 下村 千里 三宅 幸子  
 〒671-2224 姫路市青山西四丁目五十一番  
 ☎(〇七九)二六七二七六七

### 波濤神戸

保田ひで  
 波濤神戸支部  
 〒653-0852  
 神戸市長田区山下町1-5-15  
 保田方  
 ☎(078)612-9294

発行人 保田ひで  
 発行所 波濤神戸支部  
 連絡先 〒653-0852  
 神戸市長田区山下町1-5-15  
 保田方  
 ☎(078)612-9294

立花 道子 古賀 治子 富岡 経子 阿部 貞子 田 知子 三好弥寿子 保田 ひで

### 西宮歌人協会

顧問 宗秋 美地 綾子 益永 典子  
 西本 井上 達子 高橋 武雄 河村 公美  
 田中 芝淵 田鶴子 伊藤千寿子 伊藤千寿子 伊藤千寿子 伊藤千寿子  
 西海 隆子 高橋 武雄 黒坂 小林 益永 典子 河村 公美 功三

歌 会 毎月第3水曜 13時より中央公民館  
 連絡先 伊藤千寿子 ☎(0798)64-1301  
 歌 会 毎月第2月曜 13時より夙川公民館  
 連絡先 上松 菊子 ☎(0798)71-7337  
 歌 会 毎月第4木曜 13時30分より越木岩公民館  
 連絡先 益永 典子 ☎(0798)74-2991

### 文学圏

郷土に生まれ、郷土が育てた短歌誌  
 創刊昭和21年

代表 下村 千里  
 編集 集 青田 綾子  
 発行 所 浮田 伸子  
 〒651-2276  
 神戸市西區春日台1-8-1 浮田方  
 ☎(078)961-5676

編 集 委 員 岸本 寿代・宮脇 経子  
 山本 君子・吉田千代美  
 吉永 久美子  
 山本 圭子

### 東加古川短歌会

水野 美子

石飛 俊郎 大西美代子 郡 英子  
 小西 春見 佐藤 咲子 須鎗みち子  
 谷村 孝子 中田 治子 福山 祥子  
 水野 美子 村田 弘子 矢内 温代

### 西脇短歌会

会 長 宮崎 修  
 副会長 藤中 光代  
 藤原 孝雄  
 会 計 杉岡 静依

事務局  
 〒679-1114 多可町中区岸上 65-2  
 安平 八永  
 ☎(0795)32-4236

受贈歌誌・会報等

印南野文華、花鏡、薫風、眩、原型、幻桃、五月風、黒曜座、コスモス姫路、象、白珠、但馬人の歌、丹生、但丹歌人、ちぬの海、茅花、津布良、鶯が城便り、とべら、白圭、薔薇

ひおか、ひめぢ水甕、文学園、夢、林間、玲瓏、磯、六甲、尼崎歌人クラブ会報、京都歌人協会報、梧葉、埼玉歌人、鳥、新潟県歌人クラブ会報、西宮歌人協会会報、日本歌人クラブ会誌「風」、神戸市立博物館だより

平成25年度ふれあいの祭典 兵庫短歌祭

作品募集案内

作品 未発表作品1人1首  
締切 2013年8月20日(火) 当日消印有効  
送り先 〒675-1113 加古郡稲美町岡1630  
前田昭子方 ふれあいの祭典兵庫短歌祭事務局宛  
〒079-492-1766

応募料 1,000円(切手不可) ※応募者に作品集無料送付  
応募方法 原稿用紙に郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号、作品1首を明記し、応募料を添えて郵送してください。

選者 兵庫県歌人クラブ顧問・幹事  
賞 文部科学大臣賞、兵庫県知事賞、兵庫県教育委員会賞、ふれあいの祭典兵庫短歌祭実行委員会賞、兵庫歌人クラブ賞ほか多数。

短歌祭ご案内

◇入場無料◇

日時 平成25年11月30日(土) 午後1時から午後4時  
会場 けんみんホール(兵庫県民会館9F)  
内容 鼎談「短歌」何を、どう詠うか、「よい歌」をめぐる

主催 石橋妙子・藤岡成子・小林幹也(司会) 中川昭  
表彰式、作品講評ほか  
後援 兵庫県(公財)兵庫県芸術文化協会、ふれあいの祭典兵庫短歌祭実行委員会、兵庫県歌人クラブ、兵庫県教育委員会

ポトナム姫路支部

= 地区代表 =

(姫路) 西門和子 新家イサ子  
羅川範子 吉田照子

連絡先 〒679-2422 神前郡神河町貝野 297  
神保原廣己 ☎(0790) 32-0903

水甕姫路

隔月刊「ひめぢ水甕」編集室

編集委員 東陽子 阿部綾子  
生田よしえ 小松カツ子  
藤本則子 楊井佳代子

会計 安田 玲子  
〒679-2131 姫路市香寺町犬飼 366  
☎079-232-2380 小畑 庸子方

林間 ちぬの海短歌会

阪神支社

創刊 藤田 恒男  
編集及び事務局委員  
伊藤佐重子 内井 幸子  
芝淵田鶴子 永山 洋子  
南 操子

〒673-0424 三木市自由が丘本町一四二  
伊藤佐重子方  
☎(0794) 八二一六五九一

美加志保短歌会

創刊 昭和二十一年十一月

委員 藤木千恵子  
松尾 鹿次  
〒675-1371 小野市黒川町五七三  
編集兼発行人 松尾 鹿次  
☎(0794) 六二二八四六

山崎歌話会

昭和七年より継続七十余年  
結社の領域を超えた研修と懇親の場  
例会 毎月第二土曜  
安栗市内在住者と出身者の入会を歓迎する

代表 山崎 智 絵  
事務局 〒671-2525 安栗市山崎町神谷一五八  
森本萬千子  
☎(0790) 六二二五九一

水甕明石支社

左記で、毎月歌会を開いています  
お気軽にご参加下さいませ  
◇第一土曜日 午後一時より  
◇場所 人丸堂三階  
◇連絡先 向山 明子  
〒673-0865 明石市大蔵谷清水五四二  
☎(078) 九一四一〇〇七八

夢前短歌クラブ

浅野実知子 大地 芳子 尾上 幸子  
尾上田鶴子 鈴木みさ子 谷口千鶴子  
鳥越 英子 那倉 節子 則政 昌子  
東影 清子 山松 善子  
〒671-2121 姫路市夢前町宮置一四四  
尾上田鶴子  
☎(079) 三三五一〇四三三

昭和八年創刊 六甲

発行所・代表 田岡 弘子  
〒673-0845 明石市太寺四一三〇  
☎(078) 九二二一六七三  
会計室 加西市網引町 小田弥生  
運営・実務委員  
竹本美屋子 志方 弘子  
石原 智秋 牧野 秀子  
西川 和子 黒田 智子  
村瀬 美雪

年刊歌集第53集作品募集案内

作品 十首(過去一年間の自作、既発表・未発表問わず)・題を付す  
様式 四百字詰原稿用紙(A4判)二枚を用い、楷書で明記・右肩を綴  
じる

かな遣い 一行目に①題名 ②氏名(題名の下に書き、必ず「ふりがな」を付す)  
二行目はあけ、三行目から③作品十首 ④二枚目末尾に所属結社  
または団体名・郵便番号・住所・電話番号を明記  
新・旧いづれかに統一し、歌稿右肩欄外に㊸・㊹の別を明記

参加料 三千元(歌稿に同封して送金・切手代用不可)  
資格 問わない(会員・非会員の別なく誰でも参加できる)  
締切 二〇一三年七月三〇日(当日消印有効)  
送付先 〒六七九一五三三二 佐用郡佐用町上石井六八五  
安藤 直彦方  
兵庫県歌人クラブ年刊歌集刊行委員会あて

電話 〇七九〇一八五〇〇二二

新年会の記

平成二十五年一月十五日、神戸東急  
インにおいて兵庫県歌人クラブの新年  
会が催された。参加者、二十七名。司  
会は西橋美保氏。連休明けの平日とい  
うこともあり、ふだんより参加者が少  
なかったが、「却つて、少人数だから  
こそひとりひとりの方とじっくり話す  
機会が得られるのでは」という吉岡生  
夫代表の挨拶から始まり、つづけて挨  
拶に立った井上美地氏より「最近のニ  
ユースを覗いていると、この国の将来が  
どうなっていくのか、戦時下を生きて  
きた者として、あやぶまずにはおられ  
なくなり、元気を失うことが多かった  
が、今日はこの会に参加することによ  
つて皆様から元気をいただけるのでは、

と期待しています」という言葉をいた  
だいた。乾杯は、松尾鹿次幹事。ご高  
齢ながら、張りのある、しっかりと  
声での乾杯。その後、去年歌集を上梓  
された足立晶子幹事、井上美地氏、明  
石市文芸祭市長賞の松尾鹿次幹事、兵  
庫短歌祭知事賞の三津野幸代幹事にそ  
れぞれ花束が贈呈された。  
歓談をはさんで全員のスピーチ。吉  
岡代表を激励する声が多く寄せられた。  
また野瀬昭二幹事による、会報編集作  
業をしていた当時の苦労話、そのひ  
たむきなまでの誠実さと自分への厳し  
さによって多くの方の印象に残ったこ  
とと思う。  
最後に全員での集合写真ののち、安  
藤直彦副代表による閉会の辞。充実し  
た時間であった。  
(小林幹也)

受贈歌集・歌書

- ☆合同歌集みんと KCC  
野瀬昭二のやさしい短歌教室  
声あぐる裸足の子らのサッカーをカ  
ヌーに観つつアマゾン遡る 森嶋郁子
- ☆萌木短歌会合同歌集 萌木  
傷のあるところを隠し仏壇に置けば  
双子のやうな白桃 竹本美屋子
- ☆阿部茂子歌集 午後の藤椅子  
人をわすれ物わすれしてゆつくりと  
レモンテイ飲む午後の藤椅子
- ☆あだちかつし詩集 百日紅  
足立勝蔵
- ☆歌集 銀いろの凧 竹内敏子  
承らへて独り生きたる歳月もいまゆ  
るやかな河口のあたり

平成24年度収支決算報告書

自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日

収入の部

費目	摘要	金額
前年度繰越金		2,393,653
会費	1,000×713口	713,000
結社広告費	3,000×52口	156,000
歌会広告費	1,000×41口	41,000
年刊歌集	第52集 助成金	232,711
ふれあい短歌祭副会金		44,188
伝統文化体験フェア	平成24年度給付金	20,000
預金利息		193
寄付	米口 實 氏	3,000
#	吉岡 生夫 氏	40,000
#	匿名 氏	5,000
#	匿名 氏	5,000
合計		3,653,745

支出の部

費目	摘要	金額
会報費	No. 187号、188号印刷、発送	674,202
通信費	事務連絡	36,530
交際費	協賛金、早謝金	53,725
幹事会費	会場費、会議費	31,286
事務局費	渉外、交通費	31,140
消耗品費	コピー、宛名シール、文具代	19,652
年刊歌集	第52集 補填	270,966
シンポジウム24	補填	246,918
伝統文化体験フェア	補填	8,200
新年会	補填	8,200
新人賞	平成23年度後期補填	88,354
新人賞	平成24年度前期補填	22,279
次年度へ繰越		2,162,273
合計		3,653,745

上記の通り相違ありません

平成25年3月31日

監査 小畑 肇 子

- ☆井上美地 詩歌論I・II  
かつがつに保ち過ぎ来しこの山の草  
にまろべる栗拾いつつ
- ☆米口實遺歌集 惜命  
表現を終へて静まる樅の木根方に  
遊ぶ冬の落暉は
- ☆佐用文化 一四七号 佐用文化の会  
汗まみれのTシャツのままシャワー  
浴ぶ水をもらええる花のところに 船引貴明
- ☆足立勝蔵歌集 白墨  
今日よりは神戸住まいの人となる娘  
とどうん食べて別れぬ
- ◇余滴◇  
新執行部のもと事務局が始動しまし  
た。不慣れですが皆前向きに取り組ん  
でいますので、よろしくお願ひ申し上  
げます。年刊歌集・兵庫短歌祭へのご  
応募をお待ちしています。(山中)